

AAE Consensus Conference

Recommended Diagnostic Terminology

特徴：1つの疾患に対して歯髓(根管)と根尖周囲の2つで評価
つまり歯髓診断と根尖周囲組織の診断名がつく。

Pulpal 歯髓・根管

1 Normal pulp 正常歯髓：

臨床診断分類では歯髓は症状は無く歯髓検査では正常な反応を示す。

2 Reversible pulpitis 可逆性歯髓炎：

主観的・客観的な臨床所見に基づき、その炎症は解消可能であり、歯髓は正常な状態に戻ることが可能である事を示している。

3 Symptomatic irreversible pulpitis 症状を伴う不可逆性歯髓炎：

主観的・客観的な臨床所見に基づき、生活歯髓に炎症が生じていて治癒が得られない状態である。加えて温度刺激による長引く痛み、自発痛、関連痛がある。

4 Asymptomatic irreversible pulpitis 症状を伴わない不可逆性歯髓炎：

主観的・客観的な臨床所見に基づき、生活歯で歯髓に炎症が生じており治癒が得られない状態である。加えて、臨床症状は無くその炎症はカリエス、カリエスの削合、外傷により生じる。

5 Pulp necrosis 歯髄壊死：

臨床診断分類では歯髄が壊死している事を示す。歯髄は通常、歯髄検査に反応しない。

6 Previously Treated 既根管治療済み歯：

臨床診断分類で当該歯は以前に歯内療法処置されており、根管は貼薬材やその他に様々な根管充填材にて充填されている。

7 Previously initiated therapy 既歯内療法開始済み歯：

臨床診断分類で当該歯は以前に部分的な歯内療法処置（断髄や抜髄）処置を受けている。

Apical 根尖周囲

1 Normal apical tissues 健康な根尖周囲組織：

歯と根尖周囲組織は正常な組織であり打診、触診検査に対して過敏反応を示さない。根周囲の歯根膜は傷害されておらず歯根膜腔は規則的。

2 Symptomatic apical periodontitis 症状を伴う根尖性歯周炎：

通常は根尖周囲組織の炎症であり、咬合、打診、触診に痛みを伴い反応という臨床症状を呈し、根尖透過像と関連する場合としない場合があるだろう。

3 Asymptomatic apical periodontitis 症状を伴わない根尖性歯周炎：

炎症と根尖周囲組織の破壊を伴い、それは歯髄・根管に原因があり根尖透過像として視認でき、そして臨床症状を示さない。

4 Acute apical abscess 急性根尖膿瘍：

歯髄・根管の感染と壊死への炎症反応であり、それは急激な症状、自発痛、歯に圧をかかった場合の過敏反応、膿瘍形成、関連している歯肉の腫脹を生じることが特徴。

5 Chronic apical abscess 慢性根尖膿瘍：

歯髄・根管の感染と壊死への炎症反応でありゆるやかな症状、多少もしくは全くない不快感、Sinus Tract(瘻孔)を介しての断続的な排膿が特徴。

6 Condensing osteitis 硬化性骨炎：

放散性のレントゲン不透過性の病変は弱い炎症刺激に対する限局性の骨反応を示し、それは通常、根尖周囲に認められる。